

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：千代田区麹町 3-1-1
(株)昭栄広報内
電話：03-3265-4071
http://www.jinryoku.com/



関東支部会長ご挨拶

関東支部会長 昭和44年卒 瀬戸 渡

風薫るいい季節となりました。同窓生の皆さんはお元気でお過ごしのことと存じます。

去年は第30回という節目の総会を無事に終え、さらに記念誌を発刊することが出来ました。発刊に当たりましては国内外から多くの卒業生の皆様にご協力をいただきましたことに對し紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



本誌は、母校玄関横にある同窓会館に保存展示されており、だれでも見ることが出来ます。さて、今年の総会は、5月21日(日)おなじみになりました霞が関ビル「東海大学校友会館」で開催いたします。昭和最後の63卒のみなさんの実行委員会が終わり、今回の総会からは担当がいよいよ平成卒の皆さんになります。今年もみなさんに喜んで頂けるような企画を立て準備を進めているようです。是非会場へお越し下さいませよう、特にクラブ活動のOB/OGの皆さんには関東での組織作りにお役立ていただきたいと思っております。

支部では幹事会を毎月第四木曜日18時半に池袋サンシャイン60緑丘会館で開催しております。今年に入りましてから48年卒の津福君の発案で、毎回会議の前に卒業生に自らの体験談を話してもらうことになりました。第一回は不肖私がトップバッターということになりました。第二回は別府前会長にお願いしました。今回は61卒の尋木君に弁護士活動のよもや話をしていただく予定です。この会には年齢性別を問わずどなたでも参加できますので興味のある方はお気軽にお越しください。

最後になりましたが、新校舎の建築も順調に進んでいるようで総会ではVTRで母校の様子が上映されるそうですのでご期待ください。それでは皆様にお目にかかれる日を楽しみにいたしております。

ご挨拶

校長 俊一



瀬戸渡会長様を始め明善同窓会関東支部の皆様には、日ごろから関東の各地にて本校並びに本校生徒を温かく見守っていただき、誠にありがとうございます。明善生は各方面での同窓の皆様のご活躍を大きな道しるべとして、自身の目標実現に向けて日々意欲的に学校生活を送っております。

ちょうど今、学校におきましては、9月に第50回の大きな節目となる大運動会を見事にリードした3年生が、勢いそのままに大学入試センター試験を受験し、その結果をもって国立大学の個別試験(2次試験)及び私立大学の試験に挑もうとしているところ。必ずや明善入学以降も高め、温めてきた初志を貫徹してくれるものと期待し、職員一同全力を挙げて指導に当たっているところです。

3年生から「学校の顔」としてのバトンを受けた2年生、1年生につきましても、昨年12月に筑後地区の高校、特別支援学校の文化系部活動に取り組み生徒の発表の場である「筑後地区高文祭」が、4月に新設された久留米シティプラザで実施されましたが、本校が事務局校であったことから、発表や展示はもちろん、運営でも大活躍を見せました。

さらに、1月には同じシティプラザにおいて、文部科学省指定のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)成果発表会を5年間の集大成という形で実施いたしました。生徒は一年間かけて調査研究し試行錯誤した課題研究活動の成果や、その課題研究活動の質を高めることを目的とする海外研修などの成果を、緊張しながらも澁刺と自信をもって発表いたしました。シティプラザが「子どもたちと、まこと、文化の明日を元気にするためにうまれました。」とうたわれ開館しましたが、筑後地区高文祭もSSH成果発表会のいずれも、これに叶う活動ができたものと思っております。このような文化系部活動の九州大会、全国大会での

活躍、そしてSSHへの積極的な取組の中から、化学部による課題研究が第60回日本学生科学賞(読売新聞社主催)において日本科学未来館賞を得るという高い評価をいただきました。このように本校が力を注いでいるところで、確実に大きな成果を出していると感じておりますし、本校教育活動に根付いてきたSSHにつきましても、次の第2期5年間への継続の申請を国にしているところです。

生徒の成長の姿に接しておりますと、学問を含め、文化は若者に受け止められ、創造という新たな息が吹き込まれ、その時代に生きるものとして継承され発展していく。そうであるなら、一つ前を生きる私たちは文化を若者に伝えて後を託す、その橋渡し役を全力を挙げて努めていかなければならないと意を新たにしているところです。

最後になりましたが、関東支部のご発展と会員の皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしますとともに、本校への変わらぬご支援をお願いいたしましてご挨拶いたします。

ご挨拶

同窓会会長 昭和41年卒 眞木大樹



明善同窓会関東支部の皆さまには益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年は30回目の総会開催という節目の年を迎えられ、第30回総会記念誌「関東支部の歩み」を発刊されました。150ページを超えるまことに立派な記念誌をいただき感激いたしました。私が知らない大先輩の話や、昭和41年卒の同期の別府関東支部前会長や問註所君(福岡明善会)の文章にもあるように、「古希」「お伊勢参りの旅」も4月にとり行われる予定です。楽しみにしています。瀬戸会長を始め、記念誌発行委員会の諸兄に心より敬意を表する次第でございます。

ところで母校の新校舎の進捗状況ですが、最初の計画より少し遅れていますが、旧家庭科棟が解体され、跡地に図書館棟が建設される予定で、着々と工事が進んでいます。今年12月には完成の予定と伺っています。外構工事も今年11月頃より工事が開始されること、同窓会館(歴史資料館)改築・内装工事もこの時期に合わせてとり行う予定で準備を進めています。現在募金をお願いいたしておりますが、順調にご寄付いただいておりますこと心より御礼申し上げます。当初の募金の目標額は達成していますが、同窓会基金の取り崩しを少しでも少なくするためには、更なるご寄付をお願いいた

ます。現在歴史資料館の資料のデータカード化を総務委員会を中心に進めていただいております。今秋予定の改築工事に向かって資料の移動や保管など、問題はまだまだありますが、平成31年の初めには、校舎の全工事も終了すること、明善創立130周年(県立移管後)の記念式典が行われたのは平成21年、ちょうど明善創立140周年の年となることと思っております。

第50回明善大同窓会のご案内

実行委員長 昭和57年卒 島倉一邦

- 日時 10月7日(土) 14時30分開会
- 場所 ホテルマリタール創世久留米 東館
- テーマ 「襷を繋いで50回 未来へ向かう楽天の系譜」

明善同窓会関東支部の皆様、こんにちは。今年の大同窓会は、私共明善57会が担当致します。どうぞ宜しくお願致します。



今年第50回目の節目の会、テーマを「襷を繋いで50回 未来へ向かう楽天の系譜」としました。明善大同窓会は絆とその伝統が50年もの長きにわたり先輩方から赤い襷で繋がれて参りました。この明善の繋がりが、いわば「楽天の系譜」というのは、今回ご参加頂く方達だけでなく、これから明善高校へ入学し、卒業後は同じ様な経験をされる後輩の皆様へも受け継いで行きたいという思いからです。同窓会は「いつまでもかわらないねえ」「お久しぶり」「卒業以来かな、元氣そうだね」等、3年間という短い時間で共に過ごした同級生との心温まる、懐かしい思い出話が飛び交い、話に華を咲かせ大いに語り合える場所であることは、いつの時代も変わりません。

節目の50回目に担当できることをとても光栄に思います。1月に56会の先輩方から正式な引継ぎを受けた際には、「一生に一度の事なので、同窓生で仲良く楽しんで進んで行ってください」と激励のお言葉を頂き、身の引き締まる思いで本格的にスタートしました。重圧を感じると同時に57会実行委員一同、絶対に大同窓会を成功させると強い思いを新たにいたしました。特別なおもてなしは出来ないかもしれませんが、御出席頂いた明善同窓生1000人の皆様方から「51回目もまた会いましょう」とのお言葉を頂ける様、新しい思い出作りの場所として精一杯お世話をさせて頂きたいと思っております。

関東支部の皆様、母校明善高校の思い出話を故郷久留米の街で語り合いませんか。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

古希記念祝賀旅行「お伊勢参り」へ決起

「よいかい」2016年度幹事長 別府秀喜

23回目を迎えたS41年卒「よいかい」は4月10日(日)13時半から、新橋にある中華料理の老舗「新橋亭」で開催。本会の存在さえ知らなかった成富修輔君が初参加したのをはじめ、久し振りに顔を出した面々も含め36名の仲間が集って親睦を深め旧交を温めた。

議題は1点。古希記念祝賀旅行「お伊勢参り」(2017年4月11日(火)〜13日(木))計画。旅行幹事・龍頭正博君からの説明に挙って「異議なし!」。久留米を中心に関東ほかの地区から約100名が参加見込みである。

懇親会は前年度の幹事長・古賀啓子さんの開会挨拶で開宴。司会は白石時憲君と稲見(山隈)憲子さんペア。些か女性リードの二人三脚の進行に拍手が沸いた。楽しい時間は光速の如し。2時間があっという間であった。

美味な本格中華料理に箸を動かし、老酒やワイン、銘柄ものの焼酎などお酒が進むと、お伊勢参り計画や古き良き時代の懐古談義、旅行の話、趣味自慢など止まる処知らず和気藹々。中身の濃い会となった。

散会后、二次会はお決まりの新橋『集』。我々がマドンナ・二宮時子さんが経営するお店である。

ここでも久しぶりの短い再会の時間を惜しむように話が弾んだのは言うまでもない。

紅葉狩りイベント

昭和43年卒 田中和博

10月24日、抜けるような秋の晴天に恵まれた。今日は明善同窓会関東支部43会の紅葉狩りイベント。ブリヂストンの那須山荘に集合する。那須御用邸に近く麓からだらだら登りを暫く行くと森の中にBS那須山荘が有った。3時くらいから適宜集合で、早い人は一風呂浴びて、好きな人は一杯始めていた。

かけ流しの温泉は、硫黄のにおいが少し有り白濁の温泉で気持ちよく入れた。夕食はまあまあだったが、昔話何よりのご馳走だったし、お酒も進んだ。山田君が佐久の家庭菜園で取れた「むかご」を持参、鍋に



放り込んで食べた、なかなかいけた。食後は、カラオケ室に、本館から「離れ」になっていたので高歌放吟は勿論OK。20〜50年前の古い持ち歌を順番に歌う、最後は「高校3年生」で締めくくり。その後部屋に戻って夜遅くまで飲み直し。



翌朝も好きな人は一風呂浴びてから朝食。

那須にきたので山に行こうと決まり、3台の車に分乗、ロープウェイの麓駅まで行ったが既に標高が1400m、風も強く寒いくらいだった。流石に行楽シーズンでロープウェイは満員、年寄りが多かった。頂上駅が1700mの標高で、風は10m/S以上、体感気温はマイナスだった。一部の者だけが風の中を30分ほど歩いたが寒そうだった。その後、池尻君が20年くらい前に設計したと言う「上三依塩原温泉」という地方鉄道駅舎を見に行く事になった。旧会津街道沿いで少し紅葉が始まった溪谷などを見ながらドライブを楽しんだ。駅舎はなかなか斬新だったが町が小さく維持も大変そうだった。写真はその駅舎。前列中央、田中、2列目 左から永松、平田、池尻、後列左から山田、山下、内田、大塚、津城。

セブウエイ乗りました! 明善69会 秋の旅行会 in 北軽井沢

昭和44年卒 河野眞由美

毎年恒例「69会秋の旅行会」が、今年も華々しく開催されました。

10月23・24日の日曜月曜で、北軽井沢を満喫してきました。今回は男性8名女性4名の計12名。久留米から時井純子さん(旧姓橋原さん)が初参加して下さいました。お久しぶりです。朝、久留米を発つて下さったんですね。ありがとうございます!!

こぢんまりくつついて、星を眺めたり、あちこち迷いながら歩いたり、課外活動のような雰囲気でした。さて、「はくたか555号」で東京を出発し、おしゃべりしながら1時間ちよつとで軽井沢。シャトルバスで、道々の紅葉を楽しみながら、お宿の「北軽井沢倶楽部・ホテル軽井沢1130」へ。別荘地の中にある標高1130mの落着いたホテルです。

ランチ後チェックインまでは自由行動。貸自転車・セグウェイ・散策、と、じつとしていてはもったいない!!私は「30分セグウェイ体験」を予約していたので、ランチビールは我慢!



「segway」は、次世代乗物と言われている、自動立乗り二輪車。まあ、座席の無いスクーターにキックボードのハンドルが付いている、とイメージして下さい。

テニスコート横のウッドテラスでインストラクター男性が、にこやかに迎えて下さって注意と説明。「アークセル・ブレイキ無しで、重心移動でその動きを制御する。後にのけぞると、ひっくり返って後頭部打撲しますよ。」恐い!ヘルメットはきちんと装着したか確認!おっかなびっくり乗ってみる。先生のお言葉は絶対守って、左右に重心移動して方向転換。けっこうできます!20分程で乗れるようになりました。

仕上げは、テニスコートのフェンス沿いに一周してウッドテラスに戻ってくる。公道を走れないので、ホテルの敷地内です。舗装されていない石ころ土道をゆっくりガタゴト行くのですが、秋の澄んだ空気の中、気分爽快!テレビで見て、一度乗ってみたかった。大満足!一台110万円するので、ここには2台しかなく予約必要。30分毎に2人ずつだそうです。壊したらどうしよう...と、ドキドキでした。

そして、バイキング夕食。軽井沢の野菜はおいしいね。さて、いよいよ幹事部屋にて宴会。でも酔っぱらう前に星空を眺めよう、と屋上へ。満天の星!69会の天文男子が秋の星座を解説してくれました。持つべきものは友だち!

宴会は、言いたいことを言って大盛り上がり。でも、何話したっけ...

翌日も快晴。晴れ女さんたちに感謝!軽井沢駅のロッカーに荷物を預け、旧軽銀座へ。昼食後パウロ教会へ。厳かだけど親しみやすい教会で、女性はみんな「感謝」と書かれた箱に献金。他にも「願い」などあったけど、こうして生きていることに、何はともあれ「感謝」です。

別荘地を散策(というよりウロウロ迷いつつ)して雲場池に到着。水面に映える紅葉には、心洗われました。楽しい会も終わりに近づき、「あさま624号」などで各々帰路に就きました。おみやげは釜飯。幹事さんお心遣いの一品です。

これからも、旅行だけでなく、いろんな企画を下さるそうです。みなさま、お気軽にご参加下さいね。知らない仲間じゃないね。待っています。

思い出の島・壹岐 (ESS同窓会)

昭和44年卒 島津能子

博多港を出てジェットfoil(高速船)で一時間ほど走ると、玄界灘に浮かぶ壹岐の島があります。

遊び盛りの小学二、三年生を過ごした所です。サラリーマンの家で育った私には、彼等の生活の見るものすべてが新鮮でした。当時、船はお昼過ぎに着くので、朝刊も夕方に届きます。浜辺で破れた網を繕う人、耳かきのような道具でうにをひとつひとつとっているおばあさん達、おしゃべりも楽しそうでしたし、とにかく島中の人が皆働いていました。

見慣れた芦辺港に着いて観光タクシーでの島めぐりです。小高い山のような島なので、結構急な坂道をぐるぐると、信号は殆どないし、人影もありません。それでも、残っている昔の街並みはなつかしく、当時を思い出しました。

朝鮮半島から対馬、壹岐、本土とを結ぶ歴史の拠点であった事が、数ある遺跡を見ても分かります。魏志倭人伝に邪馬台国の支配下にあった一支国(いきこく)に属していた事、弥生時代の人々の生活が最近出来た立派な博物館に展示されております。

子供の頃、どうして長崎県なのかしらと不思議でしたが、今回の旅で松浦藩がドル箱のこの島を手放さなかったからだとなりました。

うに丼、壹岐牛で舌つづみ、水がいいので野菜がとてもおいしい所ですが、私達が二日目に行った麦焼酎の工場で、これまた格別なお酒に出会い、お土産に買ってきました。新鮮な魚はもちろん、今回は食べる機会がなかった壹岐豆腐もこくがあつて珍しいですよ。

浜辺で潮風に吹かれ、波の音を聞いていると本当に心を洗われます。

夜、いか釣り漁船が沖合いに並ぶ漁火は私の思い出の出のひとつで、行く機会のある方におすすめます。

先輩の43卒の方々にお世話になりっぱなしのESS同窓会ですが、これからも参加させていたたくつもりです。



昭和45年卒 2016年の締め括り

昭和45年卒 山口 務

昭和45年卒の2016年望年会を、昨年と同じくテレビ東京「アド街ック天国」日本橋三越前第3位になった「レストラン桂」で開催しました。

三越前には、2015年に「福徳神社」(官司・真木千明さん・明善同窓会真木会長(従弟さん))が遷座され、2016年には新たに葉の神様「葉祖神社」が遷座されました。三越前に、二つの神社を合わせた「福徳の森」が完成し、お江戸日本橋のオアシスになっています。

さて、今年の世の中の望年会は12月9日と12月16日に集中したように、両日に参加希望者が分散しました。厳正なる多数決によって1名差で16日(金)開催に決定しました。候補日が二日に分かれたため参加人数がいつもより少なくなる全16名(女性7名、男性9名)での開催になりました。



参加人数はいつもより少なかったのですが、遠路遙々福岡からの原くん、前日まで韓国旅行だった国際派鶴田くん、久留米から前日帰京の森木さんなど、皆さんの協力で盛会となりました。感謝・感激です。

また当日、女性参加者達はお昼に門前仲町に集合し、美味しい深川井を頂いたようです。にもかかわらず、お昼から21時(桂の終了時刻)までの10時間も話題に事欠かないという素晴らしいコミュニケーション能力にはほんとと感心します。お話し元気のなんでしょうね。

「レストラン桂」では、開始から一度も席を換える事無く永遠に話し続けていそうな面々でしたが、やはり時は過ぎ帰途に就く時間になってしまいました。お店を出た後、前記葉祖神社で「健康」に感謝して記念撮影を終え、福徳神社で「福」と「徳」を頂き、2017年最初の同期会を4月初旬に鶴田くんの事務所傍の「目黒川の花見」で開催する事を約束して2016年の締め括りとなりました。

やっぱ、とんこつラーメンは久留米たい!

昭和42年卒 長岡 健

久留米を出てからすでに45年を過ぎ、何かとふるさとの事が気にかかる年になりました。

その中で味に関する思い入れもあると思っっています。特に昨今は全国各地のB級グルメのランク付けや戦争とまでマスコミが持ち上げる全国各地のラーメン

はそれぞれの故郷を代表するものではないでしょうか。40数年前から今まで、いわゆるしょうゆ味の東京ラーメンはどうも馴染めなかった。久留米で長年味わってきた「久留米とんこつラーメン」があるからだと思えます。最近では東京のあちこちに「博多」、「長浜」と銘打ったとんこつラーメンの店があり、殆んどの人がとんこつラーメンは博多、長浜が発祥と思っている。久留米こそ「とんこつラーメン」発祥の地と認識しているものには奇異感を禁じえないのは私だけではないでしょう。

それぞれのラーメンを味わっても「こりやーホンモンのとんこつラーメンじゃ、無かぜ!」となるのであり、どうもその味に故郷の懐かしさは思い浮かばない。久留米とんこつラーメンと博多の物では大きな違いで微妙な違いがある。麺でも久留米は中細ストレート麺を多少柔らかく茹でた「ヤワメン」だし、博多は細めのストレート麺で茹で時間の短い「カタメン」であり、替え玉があるが、久留米には元来替え玉はない。(最近では久留米でも替え玉をやる店があるが)スープに至っては久留米は大きな羽釜でベースを作り、減った分を継ぎ足していく「呼び戻し」といわれるものであり、一方、博多は毎日その日使う分を作る「取り切り」と大きな違いがある。又、久留米の店によっては50年もの希少なスープを代々受け継いでいるところもあり、久留米ラーメンの煮込み時間は半世紀」と言われるゆえんだそうです。時に久留米のスープは博多のものより脂が多くて、こつこつしていると思われがちだが、脂が多いのではなく「呼び戻し」製法によりスープ自体が濃厚であり、本当は脂を加えないのでコクがありながらもあっさりしていて、最後の一滴まで飲み干せ、毎日でも食べられると言われています。

現在、久留米では従来のとんこつラーメン老舗系としては「南京千両」(屋台は現在も明治通り東町にあり)、「精養軒」、「来福軒」が濃厚系では「大砲ラーメン」「本田商店」が代表として挙げられるそうです。昔よく食べた「素ラーメン」を懐かしく思い出します。それはラーメン丼に向こう側が剥けるような薄い脂身の多いチャーシュー、小さな海苔、薄くスライスした茹で卵が一枚づつ、真っ赤な紅生姜と青ネギが少々乗っているだけでしたが、本当に美味しかった!それに高校時代は硬式テニス部の練習が終わると、「沖食堂」で一杯のラーメン(当時50円だったと思う)を食べて帰るのが日課だったのも、懐かしい青春の思い出です。

今でも帰省の際は、真っ先に目についたラーメン屋に飛び込み、至福の一杯を食べますが、なんと東京で本物の久留米とんこつラーメンが食べられる店が西新

橋と浅草にあります。「くるめや」という店で、ちよく西新橋の店で懐かしの味を楽しんでいます。そこには津福出身(江南中出身)の大将、久留米弁も懐かしいですよ。懐かしい故郷久留米に出会えますよ!最後にJR久留米駅のバス乗り場の隅に「とんこつラーメン発祥の地 久留米」というモニュメントがあります。帰省の際にはご覧なることをお勧めします。久留米とんこつラーメンを食べるたびに「やっぱとんこつラーメンは久留米たい!」と心の中で叫んでいるこの頃です。



明善46会ゴルフ部

昭和46年卒 国武 洋

ゴルフ部ってあったっけ?いえ、非公認で少し自称です。(笑)

関東46会・同窓会のゴルフ好き(?)が集まってコンペをやるようになって次回コンペで16回目になります。原則年4回、休日に関東近辺のゴルフ場で。9月は軽井沢で恒例の大宴会付きの1泊2プレールの合宿。常連メンバーは：サラリーマン生活の過半を海外で過ごし、その割には全く久留米の田舎の雰囲気は抜けな

い井出栄治君。海外ゴルフの成果が最多優勝を誇ります。最近リタイアして宴会が減ってジム通いもして8キロ痩せて16ヤード飛距離アップしたという深谷健次郎君。軽井沢の宿舎やお土産ボールでお世話になってます。水産関係商社のバリバリ現役で、そのせいか若者ゴルフでゼンター方向が少くない広角打法の松行健一君。飲み会の時はまさに学生飲みで呆れます。海上の公務員を退官して関連の海図の会社に勤める小川正康君。バスケットキャプテンの面影はなくBB、BMの常連です。つい最近までパーシモンを使っていたぐらいですから。起業してセキユリテイ関連会社の社長さんの城戸誠一君。レッスンに通った成果の回転打法でメンパーで唯一スコアアップしています。

ジャカルタから帰ってきて最近黄門髭で枯れた雰囲気森山敬君。人が好いのか他人のボールをよく探してくれま

す。でもまずはよく曲がる自分のボールを探るのが先決でしょう。山口市に引っ込んでめっきり参加が減った執行勝之君。甥



は優勝経験もあるプロゴルファーなのに似てるのは体型だけ。たまのナイスショットを追い続けて優勝が一度もない。そして、ゴルフ幹事だけは苦にならない国武洋君です。年間ラウンド数は他の誰にも負けないはずなのに成績は...。永久幹事の重圧だと諦めてますが。他には、ベテランパイロットも老眼の影響なのかよくフライトをやめた金子君や剣道の講習会についてコンペに参加した福岡在住の沢敬二郎君も。場外支援部員として博子さんと慶子さんにもお世話になってます。最近、この部活動はオープン化していて附設高校、西南学院高校、PLの出身者も参加しています。(諏訪中、城南中OB)しかもここ2、3回は他高校出身者が優勝している。ガンバレ!明善!コンペ参加者、入部希望者は何時でも誰でもOKです。連絡ください。

追悼 故榎原茂則先輩(21年卒)に捧ぐ。



昨年末、高牟礼会の重鎮、久留米高校OBの原田さんから「榎原さんが亡くなった」と電話が入った、入院を繰り返されてきたことは伺っていた最も悲しむべき日が実際に来たとなる心が動揺した。ご葬儀は12月30日に執り行われ関東同窓会だけでなく久留米同郷会など大勢参列され最後の別れを惜しんだ。

榎原先輩、長い間お世話になりました。寂しいです。悲しいです。今年、榎原先輩とご一緒してお祝いしたいことが二つありました。一つは、母校明善高校の関東同窓会が5月、記念の第30回開催を迎えた事です。

関東同窓会の草創期から今日まで、榎原先輩の献身的なお力添えがあったからこそ、母校の校訓「克己尽力楽天」を体感できる同窓会となった事を、私たちが後輩は生涯忘れる事はありません。只々感謝するばかりです。

もう一つは、榎原先輩が一年前まで代表幹事を務められた東京「高牟礼会」の会報「東京たかむれ」が来年1月10日で創刊20号の記念を迎える事です。

この会報は、榎原先輩が創刊から孤軍奮闘、手塩にかけて編集制作され、本年号から我々後輩が引き継ぎました。来年、記念の創刊20号をお見せ出来ないのが残念至極です。その第一面に《創刊20号に寄せて》と題する原稿を寄稿して頂きました。遺稿となりましたこの原稿には、榎原先輩の「ふるさと久留米」をこよなく愛されたお気持ち色が濃く滲んでいます。

昨年、不肖・私が東京「高牟礼会」代表幹事を引き継ぎ、会報を発行する事になりましたが、榎原先輩の「ふるさと久留米」を想うご遺志をしっかりと受け継いで参りたいと存じます。

榎原先輩のこれまでのご指導に心から感謝し、安らかに永遠の眠りにつかれる事を衷心からお祈り申し上げます。

別府秀喜

幹事会の「昭和X十一年卒」

昭和31年卒 松平信之

関東支部の幹事会は、このところ毎月第四木曜日に開かれております。「石橋幹一郎会長(昭和12年卒)から、昭和31年卒は同窓会に一人も出ていないネと言われた」とブリヂストンにいる鶴さんから電話があったのは、思い起こせば、昭和60年の秋、まだ暑いころでした。言われた通り、当時代表幹事の江口勝利さんと連絡を取り、次の幹事会から出席をすることとなった。

31会では、毎回30数人が集まる同期会を開いていたので、同窓会に入ることには違和感はなかったが、いざ、幹事会の当日、川合初代会長(大正14年)ほか幹事の皆さんが政官財界の錚々たる面々であることに驚いたのでした。それ以来、勤務先がずっと東京であったために、幹事会にはほぼ欠かさず出席出来たことは幸いでした。



去年の幹事会の望年会でのこと、昭和X十一年卒が続いていることに気づきました。最年少は、なんと私が幹事会にかかわり始めたときはまだ、明善三年生だった昭和61年卒、尋木浩司さん(監事)、昭和51年卒の内田直人さん(副代表幹事)、続いて昭和41年卒の古賀啓子さん(副会長)、最後に昭和31年卒の私。残念なことには、昭和21年卒の樋原茂則さんが、この暮れに鬼籍に入られてしまったことでした。

同志47(どうしよんな)会

昭和47年卒 豊島栄三郎

同志47会では、1月28日の2時から、御茶ノ水の中華「梅蘭」に久しぶりに集まりました。山陰の雪で足止めをくらったり、仕事とぶつかりたりで来られなかったメンバーもいましたが、久留米からの飛び入りも含めて、15人の集まりになりました。この店は、席だけ予約できて、有名な焼きそばもあり、結構お勧めです。

2時から始まった会は、気がつけば夜の8時でした。女子たちは一人も帰らず、やはり2時からというのがよかったです。話は、昔の恋バナ、タ〇〇のギヤラなどマル秘ビツクリ情報などなど。それにし



でも元気なこと！久しく集まらなかったのですが、最近中国から帰ってきたヤツが、同志47会の掲示板に、新年の挨拶がてら「東京での同窓会開催の予定はありますか？」という書き込みをきっかけに、みんなに声をかけることにしました。そう言えば、2000年だったか、久留米での同志47会同窓会の時、東京でも集まって電話回線をつないで、同時開催できるよ、と言ったのもこいつでした。おかげで西日本新聞に取り上げられて、少し鼻タカでした。

女子会と0次会

昭和52年卒 雨森博子

52年卒は、年に3〜4回、数名〜20数名が集まり交流を深めています。しかし、女性だけでじっくり話す機会が少ないので「女子会をつくらうよ」ということになり、第一回として、居住者が多い横浜でボウリングを楽しみました。

子どもの頃がちょうど第一次ボウリングブーム。久留米の光華楼で、友達や家族と遊んだ思い出があります。今、ボウリングブーム再来のようですが、ライトアップや自動的につけられる点数など、素敵に変身したボウリング場に驚き、ガーターの連続や百点にも届かないスコアさえも楽しめました。



「今回は都内や埼玉の同級生と一緒に品川のボウリング場で、それまでに自主練習をしよう」との話もできました。ボウリングの後は女性だけでは入りにくい焼き鳥屋で、仕事を終えた後の同級生も参加して女性だけの話。家庭に入ってご主人のご両親に仕えたり、仕事を続けながら子育てや介護を経験、子どもを連れて離婚したり…。笑っているけど、みんな頑張ってきたんだなあというのがわかり、じんわり涙。

また、昨年末の忘年会の前には「0次会」としてカラオケを行い、盛り上がりつつあります。忙しいのを理由に、30、40代は同窓会に顔を出す機会がほとんどありませんでしたが、気兼ねなく話せる同級生と会うのがうれしいのは、還暦も近くなったからかもしれません。

記念講演にて「えんととしてん」このひらがなに漢字を当ててください

昭和55年卒 伊東美晃

こういう問題に対して、皆さんはどういう漢字を想像

しますか？この問題は、昨年の10月に明善高校の創立137年記念式典での記念講演で、私が在校生に事前に出した宿題の一つです。この問題に対して「円と支店」と書いた人が約3割、「円都支店」など、漢字ですべて書いた人が約4割いました。中には「円渡支天(円周率をつかさどる神様)」と書いたり、「縁歳天(縁を大切にしながら歳をとって天に召されたい)」などというユニークな造語があったり、絵や図にして表現する輩もいたりして、とても面白かったです。私が今回、在校生に講演する内容は「縁と視点」。この答えを書いた生徒は、全体の2%弱、17人でした。

もう一つの宿題は「〇肉□食」。この〇と□に漢字を当てなさいというもの。「弱肉強食」と書いた人が7割、「焼肉定食」と書いた人が、全体の1割強いました。これら「全肉絶食(ベジタリアン)」「だとか、俺、肉完食」や「筋肉常食(プロテイン)」といったユニークなものがあったりしました。でも、私はこの講演で何が正解かを話したかった訳ではありません。

今の在校生は、あふれるほどの情報を共有させられ、そのなかで何を選択するかを常に求められるという、かなりストレスフルな環境にいます。明善校生はみんなまじめな子たちばかりで、そういった環境の中で文武両道、勉強も部活動も一生懸命に取り組んでいる子たちばかりです。そういった子たちに「大学入学試験」という関門は「一つの正解」を選ぶように迫ります。センター試験では、四つの選択肢から「一つ」を選ばせるといふ事を受験生に要求します。そのために高校生は、常にその「一つ」選べるように訓練をさせられている訳です。

しかし、社会に出たら、正解は一つとは限りません。時と場合、環境によって、正解は必ずしも一つでなく、二つも三つもある場合があります。あらゆる状況で答えは変わってくることもたくさんあります。世界的な視野で見たらたくさんあります。なので、私が在校生にお話したかったのは、「答えは一つではない」ということ。「円と支店」も「円都支店」も「円渡支天」も「縁歳天」も全部正解。「弱肉強食」も「焼肉定食」も「全肉絶食」も「筋肉常食」もすべて正解だということです。

社会では必ずしも正解は「弱肉強食」だけではなく、逆に「弱肉強食」という普通のアイデアはつまらないと思われる可能性もあるということ。日頃から視点をとくさん持ち、視野を広く、視座を高くして物事を見る姿勢を大事にしないと、「常識」という名のもと、判断を誤ったり、見失うものもたくさんあったりするという事です。

また、そういった姿勢を身につけるためには、人と会ったり、会話をしたりするという事で生まれるいろいろなこ

「縁」が、そういったものを育ててくれることが多いです。私自身、高校時代は落ちこぼれでしたが、明善高校にいたという縁で、いろいろな方とお会いすることができ、よい関係を築かせていただいたことで、様々な視点や視野を持つことが出来ましたという話を、様々な例を持ち出して、在校生の方々に話していただきました。

ご縁が広がることで、いろいろなものの見方、考え方を知ることになる。正解は一つじゃないから、縁と視点を持つことでロジックがマジックに変わることがある。そういった意識を在校生が少しでも持つてくれたらいいなあなんて思っています。

明善新校舎の改築状況

明善同窓会インターネット担当 昭和40年卒 飯田剛久

平成24年2月に始まった明善新校舎全面改築、現在まで順調に進められている。平成27年1月第三期工事が始まり、東棟の解体があつて、その後基礎工事が始まり、9月までに大会議室、職員室が完成した。これで口の字型の校舎が完成したことになる。

2階の職員室の隣の廊下の部分は広めにとられており、そこに長机と椅子があつて、自習しながらすぐに先生とのコミュニケーションが図れるように工夫されている。



ここから最終段階、第四期工事の始まりである。平成28年8月までに家庭科棟内の引越しが終わり、9月に解体工事が始まり現在は更地となつている。家庭科棟の跡地には、E棟の建設は間もなく基礎工事が始まり、12月迄には完成の予定だ。この棟にはコモンホール(学年集会ができるスペース)、食堂、図書館、視聴覚室などが入る予定だ。E棟は南側に隣接して行在所があり、庭園との有効利用のための一体化を念頭に、出入りを容易にするための開放箇所を検討されている。平成30年に入ると現在の図書館棟が解体され、広い駐車場スペース、外回りや中庭の整備作業が順次行われて12月には晴れて完成の予定である。

全面改築に当たり、ローリング方式を使つて、高校としての学習機能を保ちながら、5年にわたる建築工事も最終段階に入ってきた。

関東51会「水天宮と紙芝居」

昭和51年卒 内田直人

関東51会、1年ぶりに11月26日(土)に人形町界隈で開催した。今回のテーマは5月に改築された日本橋水天宮と遠路久留米から駆けつけてくれた福田洋一君による紙芝居「きれいな目」の公演であった。

水天宮の改築を記念しこの地での開催が決まったのは一年前、今回の幹事長稲吉君の地元でもあることから準備にも余念がなく幹事団(小松さん、井尻さん、井上君、内田)で水天宮の集合場所、会場のお店や料理、散策コースで立寄店の下見も入念に行い、満を持しての開催となった。総勢30名の参加、久留米からも福田君、山下喜久君、井手さん、笹さん、熊本から立山君、仙台から中牟田君と全国から同級生が駆けつけてくれ盛大に行うことができた。集合は11時水天宮境内、久留米の水天宮とは違いビルの谷間、初めての人は壁に囲まれ入口もわからないとの声も。記念撮影の後、稲吉君の案内で人形町、甘酒横丁の散策、人形焼、たい焼きに卵焼きなど地元有名店めぐり、昼前から筑後弁の中年男女集団が街を歩いた。一次会は正午開始、稲吉君行きつけの居酒屋貸切、狭い店内で和気藹々と昔話に花が咲いた。



今回のメインイベントは福田君手作りの紙芝居公演、地元に住む青年成富真介君が東日本大震災3カ月後南三陸町に入りボランティア活動の物語。偶然に真介君の両親から話を聞き、さらに本人にインタビュー、その時の本人の印象を題名として作られた。短期間の予定が2年にわたり、その間潜水士の資格もとり海中の瓦礫撤去や行方不明者捜索など実話に基づく物語、熱く語る感動の20分の公演、全員がグラスを置き心温まる内容の紙芝居に釘付けとなった。小学校道徳の教材として作ったものの噂が広まり全国公演に、さらには英語訳まで作られ英語の授業、また海外へも渡り語られているとのことである。

人形町界隈で二次会、三次会と夜が更けても同級生同士で懐かしい話、健康や介護の話、間もなく定年、将来(老後)の話などで盛り上がったことは言うまでもない。一部は品川まで足を伸ばし四次会もあったようである。次回は高吉幹事長のもと11月25日(土)にまたもディーブなお店が軒を連ねる三軒茶屋で開く予定である。



明善53会と名曲「なごり雪」

昭和53年卒 俣示文昭

聞いただけで当時の思い出が鮮やかに蘇る歌がある。口ずさめば目頭が熱くなる歌と言ってもいいかもしれない。多分、誰にもそんな青春ソングがあるだろう。昭和53年卒「53会」の仲間にとつて、おそらくほぼ全員が等しく共感する歌がある。昭和49年、当時「かぐや姫」のメンバーだったシンガー・ソングライター伊勢正三さんが初めて作詞・作曲し、後にイルカさんがシングルカットしてヒットした「なごり雪」である。卒業から40年近くを経てなお、思いを共有できる歌がある幸せを噛みしめている。



今年1月15日、明善高校2年5組で一緒だった井手靖くんと江島丘くんに誘われ、東京国際フォーラムに出かけた。イルカさんのデビュー45周年記念コンサートを楽しむためだ。ゲストは伊勢さんのほか、小椋佳さん、小田和正さん、南こうせつさんほか、これだけの豪華アーティストが集うコンサートに感謝したが、そのオープニング曲が「なごり雪」だった。

「なごり雪」は東京駅からブルートレインで故郷に帰る恋人との別れを描いたラブソング。伊勢さんがその曲想をふくらませながら思い描いていたのは、故郷、大分県津久見市の津久見駅だったことを綴った。

「若き日、僕が旅立ったホームがある。線路に落ちるその雪は時を経て『なごり雪』になった。そこはJR日豊線の津久見駅。『今こそどこか九州のローカル線の駅に降り立てば、また、ふと唄が生まれる気がする』その津久見駅には平成22年3月、「なごり雪」の歌詞を刻んだ石碑が建立された。列車がホームに入る前には曲のメロディーが流れる。発表から40年以上を経た今も故郷が「なごり雪」を語り継いでいる。

かたや、私たちに「なごり雪」をすり込んでくれた末安さんは平成27年8月5日、乳がんのため55歳での世を去った。もう2度と一緒に修学旅行の思い出を語り合うことはできないが、53会の面々が生き続けている限り、私たちの記憶の中で末安さんは「なごり雪」とともに生き続ける。

その挙げ句のアンコール。私たち3人は、そのサブライズ選曲にまた感嘆の声を挙げた。満場の拍手の中、イルカさんは一人でステージに立ち、今度はギターの弾き語り再び「なごり雪」を歌ったのだ。井手、春が来て君はきれいになった/去年よりずっときれいになった... 「悪い」と思いながらもまた、井手さんと江島さんの横顔をのぞき見た。唇を真一文字に結び、涙をこぼ

さないようにステージに集中する2人を見ながら「いい顔だなあ」と思った。そして、「なごり雪」を私たち53会の思い出の歌にしてくれた同級生、末安有子さんの顔を思い浮かべていた。

高校2年生だった昭和52年2月、修学旅行で志賀高原に行った。5泊6日、行き帰りは寝台特急「さくら」。3泊した雪山のホテルで、放送部員だった末安さんは館内での放送係を引き受け、起床や食事、集合などを知らせるBGMとして「なごり雪」を流した。ホテルに滞在した4日間、彼女はこの歌だけを流し続けた。

「大人になって修学旅行を思い出すとき、記憶とともに耳の奥で流れる歌があるといいなって思ってたね。雪山だし、雪にまつわる歌で、みんなが好きで、歌いやすい歌は何かあって、友だち何人かと話し合ってたんだのが『なごり雪』だったのね」

卒業後しばらくして末安さん本人から聞いた話だ。彼女は17歳にして潜在意識としての「すり込み効果」を熟知していたのだ。彼女の意思通り、「なごり雪」は修学旅行の記憶とともに53会の一人ひとりに確実にすり込まれている。

今年の正月、私が勤務する西日本新聞は元日新聞特集のテーマに「国鉄民営化30周年」を選び、トップページに伊勢さんのエッセーを掲載した。「なごり雪」は東京駅からブルートレインで故郷に帰る恋人との別れを描いたラブソング。伊勢さんがその曲想をふくらませながら思い描いていたのは、故郷、大分県津久見市の津久見駅だったことを綴った。

「若き日、僕が旅立ったホームがある。線路に落ちるその雪は時を経て『なごり雪』になった。そこはJR日豊線の津久見駅。『今こそどこか九州のローカル線の駅に降り立てば、また、ふと唄が生まれる気がする』その津久見駅には平成22年3月、「なごり雪」の歌詞を刻んだ石碑が建立された。列車がホームに入る前には曲のメロディーが流れる。発表から40年以上を経た今も故郷が「なごり雪」を語り継いでいる。

かたや、私たちに「なごり雪」をすり込んでくれた末安さんは平成27年8月5日、乳がんのため55歳での世を去った。もう2度と一緒に修学旅行の思い出を語り合うことはできないが、53会の面々が生き続けている限り、私たちの記憶の中で末安さんは「なごり雪」とともに生き続ける。

それは2006年の事でした。会社が宿泊主体型ホテルのブランドを新たに立ち上げるとの事で、私は10

先輩との偶然の出会い

昭和56年卒 井上慎一

それは2006年の事でした。会社が宿泊主体型ホテルのブランドを新たに立ち上げるとの事で、私は10

月の社内異動でその開業準備室の課長として勤務する事になりました。会社自体は大阪が本社であった為、東京と大阪を行ったり来たりで、かなり忙しい日々を送っていました。ある日、事業本部の首都圏忘年会の2次会で銀座のバーに行き、皆で飲んでいたら、担当役員である取締役本部長から呼ばれ、「井上、お前は福岡県出身らしいな。福岡のどこや?」と聞かれ、「はい。久留米です。」と返答したところ、「何?久留米か。高校はどこや?」と聞かれた為、「はい。明善です。」と返答。「ほんまか。わしの後輩やないか。」と言われ、本部長は非常に驚きながら喜んでくれました。私自身も世間に出て初めて出会った明善の先輩が、なんと社内でも尚且つ上司であった為、こういう事もあるのかと偶然の出会いに改めて驚きました。会社自体が系列会社との合併を繰り返してきており、大阪採用の社員がメイソンの会社でしたが、まさか明善高校のOBの方が社内にいるとは思いませんでした。私にとっては本当にラッキーな事でした。



又、最近も驚いた事として、以前は一回も同窓会に出席した事がない私でしたが、(同窓会名簿では行方不明になっていました?)友人から東京で同窓年の同窓会があるとの連絡を貰った為、懐かしいのでたまには行ってみようかと思いつき、さらに関東支部の幹事会に誘われ参加したところ、上司であった本部長と同窓年や1年後輩の方が幹事会の幹部である事が分かり、世の中は結構つながっているものだと感じました。さらに本部長と同窓年の方々は、なんと私の叔父の同級生で友人でもあることが分かり、再び驚いてしまいました。偶然というべき事が重なりましたが、昔は祖父が今町(現中央町?)で宮崎銅管継手という会社を営んでいた為、近所という事もあり父親9人兄弟の内7人が明善で、母親も明善であった事を考えれば、改めて親戚中が世話になった学校だと(私は先生方に迷惑をかけましたが)明善に感謝しております。

昭和61卒同期会の活性化

昭和61年卒 尋木浩司

早いもので明善関東支部同窓会の幹事を担当させて頂いてから3年が経過した。幹事担当の際には、30名以上の同期が集結したが、昨年の明善関東支部同窓会に、幹事担当時には所在が判明していなかったバスケットボール部のメンバーが複数参加したことに端を

発し、バスケットボール部ルートで「61卒関東支部同期会」のメンバーが新たに増殖中である。私自身は都合がつかずに参加できなかったものの、昨年8月27日に新橋にある「九州黒太鼓」という店に20名弱が集まり、深夜まで再会を楽しんだようである。



61卒バスケットボール部メンバーの勢いは増すばかりで、昨年の大晦日には、地元久留米で61卒プチバスケットボール部同総会を開催したようである。SNSの普及で自身が参加してなくてもタイムリーに同期のメンバーがどのような交流をしているかの情報が入ってくるのはとても楽しい気持ちになる。

61卒のメンバーは、今年から来年の4月1日までの間に丁度50歳の大会を迎える。高校時代には、50歳と言えは貫禄十分の立派な大人であろうと思っていたが、自分も含め気持ちは高校時代とあまり変わらないし、集まって飲んでいるときの話と言えは、高校時代とあまり大差の無い内容の面白話や「あの時、誰某がどうした、こうした。」という思い出話ばかりである。

変わったといえば、年相応の外見の変化と年相応の不健康具合であるが、これは長年の暴飲暴食という自己責任に因る部分も大きい。今後の課題は、アンチエイジングと健康増進であろう。酒を美味しく飲み、ゴルフをするなど、今後も末永く楽しく交流するために、心身共に健康を維持することが肝要である。今後、益々「61卒関東支部同期会」のメンバーが新たに増殖し、皆で末永く楽しい会話が出来ることが期待している。

**新企画「席替え懇親会」
(平成28年度総会幹事を務めて)**

昭和63年卒 菅谷 聡

「誰か講演できる人いる?」「誰か有名人呼べない?」昭和62年卒の先輩方が幹事をされた平成27年度関東支部総会に参加した後の二次会での話題は、もっぱら「来年の講演はどうする?」でした。諸先輩方に興味を持っていただけた話を30分できるような「スター選手」が、私たち昭和63年卒組には見当たりませんでした。そんなとき、「でも、せっかくみんな集まるんだから、もつと先輩後輩達とも話したかったよね。」という同級生の一言に、「そうだよね。」と賛同。

そこから、「スター選手」不在を逆手に取った新たな企画「席替え懇親会」計画が始まりました。

前年まで29年続いてきた講演を行わないことや、懇親会の途中で席替えを行うことへの懸念や不安がありました。幹事会での承認を経て、実行へと移していききました。瀬戸会長の会社会議室をお借りして、同級生12名が集まって行った案内状の封入作業や、総会前日の会場に6名が集まって行った協賛品や配布物の仕分け作業、さらには総会当日朝9時に集合して行った最終準備やリハーサルは、さながら30年振りの文化祭準備のようで、それだけでも十分楽しめました。



そして迎えた懇親会本番、心配していた懇親会途中での二度の席替えも無難に行うことができ、また会場の予想を超える盛り上がり、私たち幹事学年も、「これは成功だね!」と手応えを感じつつ閉会を迎えました。閉会後に先輩方から、「席替え懇親会」に対して、「出身中学席割は良かったね。」「新しい試みへのトライなくして進化、発展はないよ、ナイストライ!」などのお言葉をいただき、私たち同級生も充実感を感じながら二次会を楽しむことができました。

私たち昭和63年卒生にとっても、この機会に得られた明善同窓会の縦・横のつながりが様々な場面で活かされる様、大切にしていきたいと思えます。

5月総会に向けて

平成元年卒 原 長亮

今年5月の総会は、私たち平成元年卒メンバーが務めさせていただきます。会社で平成生まれが新入社員として入社してくるようになった時は「平成になってもうそんなに経ったのか」と感じたものですが、私たちが「もう平成卒が幹事をやるようになったのか」と言われる立場になってみると少し若返ったような気がしています。

冗談はさておき、私は高校卒業後、大学・社会人も九州を離れており、同期と連絡を取り合うこともなく、一部の同期と年賀状のやり取りを続けていた程度でした。そんな中、数年前に、連絡のついた同期数名と新橋にある「有薫」というお店で同期会を行い、その際にお店のノートに名刺を貼りましたところ、その

名刺を見て連絡をくれた同期もいて、大変懐かしく感じました。今回、その時に一緒に飲んだ同期に誘われるかたちで幹事メンバーに加わりました。が、ちよつとしたことが縁になり、それが繋がっていくことに、面白さと感慨を覚えながら、今、同期の仲間と連絡を取り合って準備を進めています。



総会、特に懇親会は、ご参加いただいたみなさまに高校時代や地元の思い出を懐かしんでいただけような場にしていきたいと考えております。あやふやになつてしまった当時の記憶をたどってみたり、どうしても思い出せないことをスッキリさせたり、地元の物産などに親しんだり、そういった同窓会ならではのテーマで、同窓・同郷の仲間と思いついた時間を過ごしていただきたいと思います。是非お越しください。ただ、なにぶん慣れですので、思いが空回りしてご期待にそえないかもしれません。その際は、温かく私たちの思いをお持ち帰りいただければと存じます。

第15回明善同窓会関東支部ゴルフ大会開催される

ゴルフ委員長 昭和43年卒 山下政晴

第15回ゴルフ大会は2016年10月22日(土)大熱海国際ゴルフクラブ大仁コースにて開催されました。参加者は18名(うち女性3名) S33卒からS62卒まで幅広いのですが平均年齢は66歳と熟年組が多くなっております。10名は東京駅からの往復貸切バスを利用。初参加は原田学さん(S62)。前回優勝で今回の幹事である山口務さん(S45)の見事な采配のもと、和氣藹々とした楽しい大会でした。優勝は椿博行さん(S41) ネット75。バスに乗り遅れて急遽新幹線、タクシーを乗り継ぎ何とかスタートに間に合いました。その焦りを物ともせず見事優勝!参加者の平均クロスは108でした。帰りのバスの中はいつものことながら大宴会が東京に到着するまで続きました。次回開催は2017年4月20日(木)「飯能くすの樹CC」です。初めての試みで平日開催とします。多数の参加をお待ちしております。特に若い同窓生の参加大歓迎!



私たち平成元年卒メンバーも、こうした機会があったからこそ集まることのできたメンバーも多く、幹事を務めさせていただいていることは本当に良かったと思っておりますし、これをきっかけに改めて長く仲間と付き合っていきたいと思っております。当日はみなさまと一緒に明善卒であることを誇りに感じつつ、楽しみたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

明球会活動「秋明対抗戦 第9戦」

昭和51年卒 内田直人

秋田高校と明善高校、両校野球部創部110周年を記念し始めた「秋明対抗戦」、前年は明善が念願の2勝目をあげ2勝6敗の戦績、今回第9戦を11月19日(土)に連勝めざし東大野球場で開催した。秋田高校は第1回全国中等学校野球大会に出場し、一昨年12月に大会100年目を記念し当時の出場10校が甲子園に再会し再現試合にも出場した。今回の秋田高校OBも甲子園出場し宇治山田高校と対戦したとのこと。

第9戦、明善先発の友池投手はじめ投手陣の不調、一方秋田は甲子園出場に備えた練習のお陰かさすがの打線爆発、本塁打を含め鋭い打球連発で得点を重ね一時は9点差。明善は津留の猛打賞などで2点差に追いつけるも、残念ながら18対9にて敗戦。選手陣は別府先輩はじめフロント陣からの厳しい声援に比べられず、悔しい思いを胸に第10回大会勝利に向けて体力維持、個人技向上に努めることを誓い合った。



編集後記

同窓会の旅行記、軽井沢や那須、志岐への趣向を凝らした楽しい旅行を伝えた。今年はお伊勢参りが計画されている同窓会もあるようだ。また、都内での恒例の同窓会、日本橋や水天宮など特徴ある場所でも楽しく開催された様子もお伝えでき、さらに、久留米ラーメンを熱く語る話、名曲「なごり雪」にまつわるジンと来る話なども添えた。毎年、当幹事団が結成に至る苦労話や、終了後に団結力の強くなった話など同窓会の歴史は継続しているのを感じる。この会報は約2000人の支部会員へお届けしており、今度は会員読者からも思い出の楽しい記事や同窓会への期待など記事をお寄せ頂ければ嬉しい限りである。(NU)